

磐梯山憲章

磐梯山は、その美しく雄大な姿から「天に掛かる岩の梯子」を意味する「いわはしやま」と呼ばれ、古くから山岳信仰の対象とされてきました。万葉集には「会津嶺」と詠われ、別名「会津富士」とも呼ばれております。その雄大さ、気高さにより、「慧日寺」に代表される会津の仏教文化の発祥の山として、広く会津の人々から崇められ、心のよりどころとされた霊峰です。

磐梯山は、1888年（明治21年）の大噴火の「岩なだれ」により、四百七十余名の犠牲者を出しました。一方、この噴火により、「五色沼」をはじめとする多くの湖沼群が創生され、多様な生き物を育て、併せて美しい景観が人々を魅了し、また、その学術的価値も高く評価されております。

磐梯山は、わたしたちにとって、美しい景観とともに豊富な水資源や温泉などの恵みをもたらしています。先人は、この恵みに感謝するとともにこれを活かして、温もりと潤いに満ちた生活と文化をはぐくんできました。

しかし、今、磐梯山の自然環境は、人々の生活様式の変化や余暇利用の多様化などにより様々な影響を受けています。人の手によって失われたその貴重な自然を復元するためには、長い年月が必要となります。

磐梯山は、自然、景観、歴史、文化のどれをとってもすばらしい「宝の山」です。未来へ引き継ぐべき貴重な財産です。わたしたちは、この宝を後世に伝えるために磐梯山の自然、景観、歴史、文化への誇りを持ち、自然保護と火山防災に努め、一人一人が自ら考え行動し、磐梯山と人との共生を目指します。

今こそわたしたちは、磐梯山を愛する思いを結集し、力を合わせてその保全と適正な利用に取り組み、「磐梯山は、地域住民にとって財産であり、宝の山である。」と宣言します。

そして、磐梯山に畏敬の念と誇りを持ち、後世に引き継いでいくことを決意し、猪苗代町・磐梯町・北塩原村は、ここに「磐梯山憲章」を定めます。

- 一 磐梯山の自然、歴史、文化を学び、よく知ろう。
- 一 磐梯山の恵みに感謝し、活かし、人との共生を図ろう。
- 一 磐梯山の自然環境を守り、適正な利用に努めよう。
- 一 磐梯山に畏敬の念と誇りを持ち、後世に継承しよう。
- 一 磐梯山のために、一人一人が自ら考え行動しよう。

平成 22 年 9 月 21 日

猪苗代町・磐梯町・北塩原村